

宮本武藏

第一百九十七回

機雲は「何と二天お前座をして遣つておくれ」「二私が前座を遣るのですから、何うも遣つたことがありませんから、」
「何でも宜い、後風土記や、太閤記はお前の腹の中にあるだろう、四代記の内に遣んなさい」「二それで機雲を遣りませうと」「二天は高座へ上り機雲記を囁きうとしたが、學者の病氣と云つて却つて學問のある人は囁きれないもので二天



院長 安部修三
京城永樂町三丁目金光教會前
安部醫院
電話四一九番

出る者も、つまらないことを聞くものだと思つて居ると、向ふの階から一戸出て来て、**「エ、先生、あのの片手のことを猿棒」と**云ひますが、あれは何ういふ譯で、**「驢、オヤとんだことを聞く奴があるものだ」と**思つたことが何となく氣をつければそれなぐいから、考へて居たが、**「驢」**はそれはいかういふ譯だ、**「伊豫守義経が平家を滅して都鄙阿に居た處」**、**「梶原の讒言」**によつて鎌倉より右大臣賴朝が土佐坊島庵を討手に差向けたる處、**「義経此の島庵を討手にて九州路へ免れたる」と**播州大物浦より船にて海上へ乗出したる處、**「假に一天搖空り颶風雨起り、激浪白浪激浪立つてアヤシ此のの船遣へるかと思ふやう」**、**「船中へ」**が、入つた時に武藏坊頼朝が、**「下知を爲し」**に當々に水を汲んだる、**「龜井片岡」**

京城永樂町一丁目品東別館直向
花柳病 須古醫院
皮膚病 電話二〇二番

伊豫守河、或は蟹或は桶を持て水を汲出す、**「義要手桶の片手を取て是に」**

を裁ちてゴブア^{ゴブア}してさんご大風^{さんご}に衣を被せぬやうだと云つたのだが、
 寛^{かん}の寛^{かん}林^{りん}と云ふのは甚麼のことぞ、
 寛^{かん}林^{りん}と云ふのは甚麼のことぞ、
 へう林^{りん}と云ふのは飯粒をねつて糊にする
 林^{りん}のことだ、此の點讀しといふ意
 味である、
 つまらぬことを木葉
 の火と言ひますが、
 野^のそれはパツと
 して野^のが無いから然う云つたのだ

た、此の人名代の弓取りで、雁を三
羽一に射て落す若し後れたら甲賀
に射らりよ早く飛行けし申す事であ
る。○「ハア然うでござんすかそれで
悉皆判りました、あの狼が衣を脱た
さふが、あれは何のこで、」

効特に見んせ

だんにて常にゴホ
 ンゴホンと嘯む人
 せんぞくにぞせい
 ぜいせし人
 だんせきに
 肺病にて常に力な
 げきせる出る人
 小兒百日せき又は
 血の交る人
 香餅のかれ咽喉の
 痛み総て呼吸器疾
 患の癆にて傾
 る卓効あり又常
 にし香餅のつかれ
 を補ふ事妙なり
 二月廿二日
 月分金分
 一五三二
 科金銀
 四二二二
 法文書に余は各本店に
 取寄し賜ふ代用不吝
 物請へ
 藤田屋豊島町
 藤井得三郎
 寛政花火一四二四
 振替所金東京九一

龍角散

用散

めづるをせりまをんた

今です！
 流行期は、凡ての人の
 が感染すべき氣候激
 盛の時。今です！
 強壯な人でも風邪を
 引きがちですが夫が
 たんぱくをとりこん
 だ時こそ決して
 油断はなりません
 わけてたんぱくせん
 そくは最も緊要な呼
 吸器を侵し遂には肺
 炎、肝臓、脾臓等に内
 傷し易から輕症の内
 呼吸器病、切の專
 門藥劑散の服用が
 最も肝要です
 又數年の痼症に悩む
 人も意らず服用あら
 ば、氣分は爽快となり
 柄毎に日々に進み至
 終に治癒するに至る
 滋養散

三少刀石齋

MITSUWA SOAP.

* The pure soap, from chemical point of view, should dissolve transparently in Alcohol with no sediment at all. Not only MITSUWA SOAP fulfils that requirement but it possesses a delicate and refreshing smell. It is absolutely free from all traces of impurities and contains no "free" Alkali. It makes a soft, creamy lather, which cleans the skin thoroughly, and wears to a last wafer. MITSUWA SOAP gives comfort and satisfaction every moment of its use for toilet, bath, and nursery.

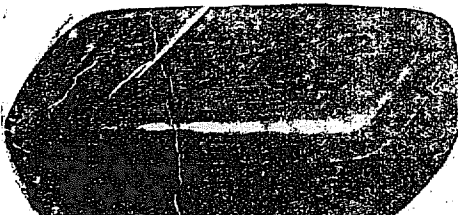
三ツ石

○**ニツワ石鹼**は

化學上の純石鹼たるのみならず、なほ左の性質を具備す。

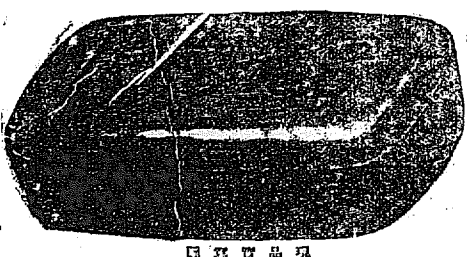
- 一、原料を精選し、脂肪に香料に苟も刺激を感じずべき虞れあるものを用ひず。
- 二、溫雅の芳香を有す。
- 三、細き泡沫を生じ、適度の溶解性を備へて、能く水にも溶解し。而かも浴室に用ひて中途に溶け崩るゝが如き憂なし。

故に、一般の家庭に於て、浴室、化粧用として、衛生に叶ひ、經濟に合する、理想的實用品なり。



種大	類小
形家	箱小
飛帶川	形中
定貨金貳拾錢	形大
金拾錢	形旅行
銀錢	形旅館
	箱川
	定貨金五
	錢

日本國製品



藥庭家ワツミ スプツロド油の肝

電話特長浪花 丸屋商店 東京東區橋本四丁目丁目 番一七〇

平壤 栗ピンス 平壤電話

秋

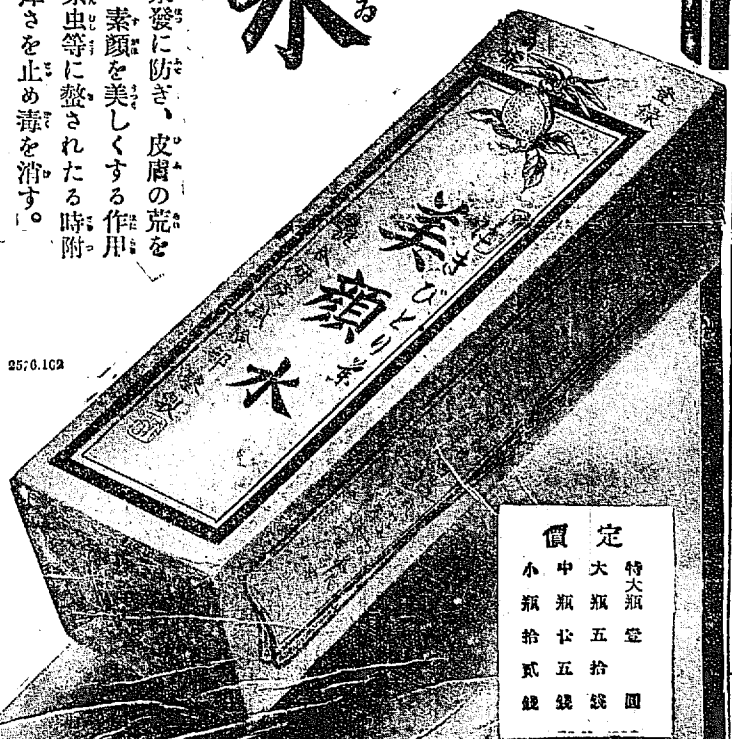
常用
じやうよう
すれば

去り肌理を美しくし、素顔を美しくする作用あり。
尚蚤、蚊、南京虫等に螫されたる時附

美^び顔^{がん}水^{すい}

に
き
び
と
り

二
キビ
吹^ふ
出^で
物^{もの}
を
治^なすには



價	定
小瓶拾貳錢	特大瓶壹圓
中瓶廿五錢	大瓶五拾錢

京城日報

必要を感ぜざる處なし。蓋し今日、朝鮮の農産品は、日本に於て其の需要を飽かざる處なし。蓋し今日、朝鮮の農産品は、日本に於て其の需要を飽かざる處なし。蓋し今日、朝鮮の農産品は、日本に於て其の需要を飽かざる處なし。

農業は却て「ハンド・キャップ」といふ地位にある。農業の利益は到底盡くすべからず。農業の利益は到底盡くすべからず。農業の利益は到底盡くすべからず。

農業資本が漸く去りて、商業資本等に投せらるゝと同時に、農業資本が漸く去りて、商業資本等に投せらるゝと同時に、農業資本が漸く去りて、商業資本等に投せらるゝと同時に。

退ける他の一方には都市に人口増加するものなり。退ける他の一方には都市に人口増加するものなり。退ける他の一方には都市に人口増加するものなり。

の諸弊害を生じ來りて社會の禍患とならんことを虞めんとし是れ今日世を象徴するところ歟。

の事に當るもの、亦其の務むることなきをばけむや。近頃我本土の藩閥議會は、政府に對て農村調査を設置することを建議すべしと云ふ。我本土人民は甚だ遷移を好まざれども、人口都市に集中し、農村衰退の狀漸く著しきものとあり。是れ帝國議會が此に注意せる所以なるべし。然るに我朝鮮人は、本來遷移を好むものなり。其の人口が配上の愛憎は本土に比して、更に甚だしきものなれば可らず。

利に消化せんかに想到せば、在滿の同胞は現在の呑吐港たる大連出口及び安東の外、既成の満鮮鐵路を最も有益に利用する本制度に賛成すべきは論を俟たざるなり。而して之が實際施に依り直接便益を被るものは勿論生産地に住者にありと雖も、勢力上より最も多く之を利用するものにして大連口に至るまでは至る人も亦恐くは第一位にあらずとも同業者の一般に認めるところなり。翻て大連輸出貿易の實情を観察す

二線問題に就て
安東縣 金井佐次氏寄
日隆公司

△賛成の理由二續き

而して現況に於ては奉天以北の特産物を九州山陽一部の需要に於此新鐵路に由り輸出することさへ尙且つ當る者の發起と努力を要するにあらずんや大連各港間には定期航路の存在するあり一般海運の設備充実に大抵是れは容易に其目的を達し難かるべしゆゑに支那外蒙本國は大正九年年度に四十四萬二千餘噸なりしも二年度には六十一萬二千餘噸に上り三年度は更に六十四萬六千餘噸を示し四年度に於ては一躍七十九萬八千餘噸に暴昇したるを見るべきは實に驚異なるに於てをや故に鐵道經路に依り

大連港は滿蒙開發上世界的に發
達すべき運命の下にありて世界

大貿易港として發展すべき使命を有し、且つ其要素を具備するものか、これを以て距離、比例主義、實施の結果、直に大連及び瀋陽に大なる影響を及ぼすに如きことなるは、大連人土に言明せらるゝところは、に彼の連泊房に及ばず、掘壕の如きも亦一花室に過ぎざるは、前説に依り、然るべし、ことなり。

[illegible]

載寧鐵山 (續)

△一體露天掘　　坑道掘との
否は鑛石の種類と鑛山の状態に
つて決せらるゝものであるから、
それを究めずして娘が、宜いこい、
は出来ぬ、當山の如く、金山、
鑛石は、鑛山に依るこゝ計、
鑛石は、從つて其設備は鑛石や十塊
運搬に要する軌道位のもので足り
つ探掘した鑛石は前山に述べた通
其の儘鑛所に輸送するのである
然、鑛山の製煉のさい、面倒な
備も當らず、極めて簡單で、
鑛山に採掘は漸次地下に進む、
から

△前途甚有望　である、殊に
事務所附近の平地部に、地下に一大
鑛床を發見したガボーリングの成
績に依ると、少くとも十五六萬噸の
鑛石は賦存してゐるさうであるから
結局、當山は、尚ほ多量の前途を持
てゐることが判る。唯だ、鑛脈が地不線
下に入るこゝは、探掘作業をして
極めて困難ならしめ、從つて從來の
經費では到底完全な採行は出来、
てゐるが、鑛脈の現地の市價を保つ
に、假令少々は下落するとも、今日
の狀況では、如何なる設備をしたも

なつて絶えず揚水機や唧筒に依
る水作業を併用しなくてはなら

なる。白田主任の眼に依るゝ此處も
 知らず其の設備の必要に迫るなら
 ざる事であつた。然し農商務省と
 製鉄年限は本年で満了する筈だが
 來年度からは此の設備も條件とし
 更に有利な契約が結ばれるだらう
 としたといふとは當惑者に取つては
 辛福な次第で當處も此の
 だから多少は氣配つて呉れるに違
 ない。

幾年か幾年か経て死ぬるゝこと
 が無性に悲しかりけり
 コモスはその口つけを否むじと
 靜に夕べの暗にゆれけり
 雲休みに今日も月面をもとめ來て
 草節吹く心に和むと
 京城 蕪村 紅花
 半島のはづれの小さき鐘に友を
 は送る秋はさびしむ
 互に生命さびしむオロシヤの旅

日報歌壇

年か幾年か経て死ねるてうこと
 無性に悲しかりけり
 スモスはその口つけを否むじと
 に夕べの暗にゆれけり
 休みに今日も月向をもとめ来て
 笛吹くに心細むじと
 島のはづれの小さき磯に友を
 送る秋はさびし
 互に生命さびしおロシヤの旅

應 用 家 庭 醫 學

順天醫學博士 藤波剛一先生序
 澤全醫學博士 福政一先生序
 トクトメ 羽太銳治先生編纂

コレラ病の猖獗に對する完全第一無病健全の諸君に家庭の一冊「應用家庭醫學」を備へることを意味す!!

家庭醫學を「應用」するに備へる一冊の大事業である。現代刀圭界に名聲轟々たる十三大家の深遠なる學殖と他年の實驗とを傾倒して十八篇九十九章、七百十九項目に亘り、老然大冊を爲す家庭醫學の寶典、通俗醫學のオゾンリチーたる者本書を措て他にありや。

發賣所
 目丁一町馬傳南區橋京市東
目黒分店
 □番七五三三二 京東 替振 □
 圖九四七二 橋京 話電 國

目次大要

第一編 衛生學綱要 (トクトメ太銳治)
 第二章 人體の解剖及生理 (日本橋醫院院長 松尾峰太郎) 第四章 藥物學 (藥劑師 藤田三之助) 第五章 調劑法 (藥學士 安井作太郎) 第六章 一般醫學士 菊地林作) 第七章 內科 (一) (トクトメ太銳治) 第八章 泌尿生殖器病 (トクトメ太銳治) 第九章 花柳病 (トクトメ太銳治) 第十章 婦人の生殖器病 (トクトメ太銳治) 第十一章 妊娠及分娩 (高橋小太郎) 第十二章 育兒法及小兒の疾病 (醫學士 河合三郎) 第十三編 皮膚の衛生及疾病 (トクトメ太銳治) 第十四編 眼科 (醫學士 大和良作) 第十五編 耳鼻咽喉科學の一般 (醫學士 杉村宗宗) 第十六編 齒の衛生 (醫學士 杉村宗宗) 第十七編 齒の衛生 (醫學士 杉村宗宗) 第十八編 應急療法 (醫學士 河野高橋小太郎)

本書の特色 本書は內科外科、泌尿生殖器科、產婦人科、妊娠分娩より疾病に對して診斷投藥、應急手當、看護法等須知の智識を網羅せり。本書は從來の素人療書は從來の素人療體の如き最新醫學の根本的智識を最も平易明快に教ゆる通俗醫學の一大百科辭典なり。本書は個人衛生と共に在來の通俗醫學に關却せられたる公衆衛生、學校衛生居住問題等の如き刻下焦眉の大問題に對して懇篤適切な解釋と指導を與へたり。本書は毎篇著名有数の專門國手の責任執筆に係り世上漫然たる治療本が稍々もすれば讀者を謬る者とは其選を異にせり。

正價四圓七錢
特價三圓十五錢
 送附 市內四錢 地方六錢
 備 鮮 壺 海 棧 各 名 拾 五 錢

新案第九、製作鑑賞
 高里、意匠製作

蜂印香露葡萄酒には
萬人の腦裏に徹底せる
強大の特色あればなり

日く品質精良!! 美味滋養!!
優良生葡萄酒を素とし補血強壯料を
主成分として精製せる本酒は
只朝夕一杯づつにして
血を増し肉を肥やし
力となる!!

東京東區大塚
新井利隆近

義手義足専門製作
(見本都呈)
服膺帶、痺おき(器) 京城本町二丁目五一番館(六番)

女 鳩



(四) 朝 日

かくして其の夜は夢なき苦悶のうちに明けた。
朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

渡 邊 黙 禪

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

毛 皮 ぬ め し

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

新 刊 紹 介

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。



朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

皮膚科
生 殖 器 病 淋 病 梅毒 皮膚病
日 明 治 大 学 医 学 部 皮膚科
院 醫 藤 佐 (番 三 七 一 話 電)

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。

純人參精腦を召上
精力忽ち旺盛となり
疾病に對する抵抗力を強大にす
本劑の奏効絕對に確實なるを普及する爲
當分定價の二割引一葉書の御申込に應ず

新 刊 書 御 案 内
流 經 新 藥 レス ノ リ ン
月 經 新 藥
新 刊 書 御 案 内

大 阪 商 船 出 帆
大 阪 商 船 出 帆
大 阪 商 船 出 帆

新 荷 著 廣 告
ス ケ ー ト
急 至 是 望 希 店 約 特
れ あ 込 申

日 本 郵 船 出 帆
日 本 郵 船 出 帆
日 本 郵 船 出 帆

大 阪 商 船 出 帆
大 阪 商 船 出 帆
大 阪 商 船 出 帆

朝の光が窓の隙から射し込んで、部屋を照らす。女は目を覚まし、顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見つめ、涙が頬を伝う。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。朝の光は、彼女の心を照らす。彼女は、朝の光を待ち、朝の光を待つ。